

# てんぞ新聞

73.5.No.191  
発行所 徳島県 0683-88-5292

## 斯く斯く

ひやく日に日にと萌える。祖谷はきれいです。時に茶葉樹が多い山は、木の芽が出はじめから、茶も赤と緑に染まっています。雨が降るたびに深々とした緑色。あ、困る。はいはいと感心しながら。フーヒーを一杯。美味いなあ。

五月にむくも朝、十度以下の日もあつたりして、木の芽が出てもひかひか春が山の頂きまご登っていきません。

山菜も、なまこ味がおちるかも知れませんが、林道沿いのタラの芽とかコリアブラを獲りにきこいます。近頃は、栗も食べたいので、木をたたくにする様子を獲りたててみせ人がそろひい人は、今年獲れればいいので、木をイタメコとして行きます。山の物は、大きな木以外、誰がどうしていいものかごしやうか。少はくとも、私有地である事は間違いないので、温かいことにはなります。山野草もかかります。勝手に、山の持主は、だまるといふか、

## 鹿

のびこようか。四月は、植林の行事が中心でした。花粉症の害からからは、怒り山をこすますが、杉の苗を植える行事です。モサイク間伐とかきり切った後に植えるのです。



と感心しながら、アケウとお金を縁に付きまじった。鹿対策の荷は、何年後かには消滅するとうのですが、その時がくれば、鹿に皮はむかれこまうごしやう。鹿といえは、農作物の被害が大きい。獣害指定し二頭以内で猟師の人たちに捕まえてもらっています。民家の周辺には、まだまだ被害がはくひりません。人の近くに来れば、おいしき植物がある事を知ってこまうので、なまこ手短かくなりました。共存の道は、はいものごしやうか。鹿だけごまく、山野草の群生地が、あれば、訪れる人が多くなり、山野草がはくひりこまう。

鹿に葉を食べられ成長が止まらぬ。木の直経十五センチを長さ一メートル位の筒状を苗にかがせ、両側にワイを打ち、筒をさす。この作業、のびますが、この作業、以外と時間がかなり、標高一百メートル前後の奥深い所。南さえるのは、ミンセエの鳴き声と上空の飛行機の音だけ。炭焼きの後があつて、山仕事りの為の小工の小屋があつたりと、よくもまあ、一入りの門に植林したものごと感心して、ひんごまを、おぼん

多分、全国の山々で、山野草の群生地が、あつた数年ごまわらしている例は、少はくはいとあつた。よくは心配のある群生地に、徳島三ツ嶺を守るとの支障のもとに、ネットをこまう。ことに、前日、作業をこまう。なまこ。今頃、芽が出はじめた。数年より株数が少はくはくしているの、おぼんをえお実地し、警察の方へも持まや陽門。山野草の名前を届けて、たので、勝手に、通報出来ることになりまじった。鹿よりは、なまこタチが悪いかも知れませんが、なんとかおぼんのご協力ご群生地保護をこまう。ネットを張らば、くもいように、大切にこまう。